

アーカイブズ・カレッジ講演会

なぜアーカイブズは必要なのか— 文書保存の意義と実態

この講演会は、地域の中核を担う人材育成を目指して設立した「いわて高等教育コンソーシアム」と国文学研究資料館の3研究グループとの共催による講演会です。

欧米だけでなくアジアでは中国・韓国においてもアーカイブズは重要視されていますが、ようやく日本においても、災害の経験を経て注目されるようになってきました。しかし、まだ十分とはいえません。

今年度は、国文学研究資料館がアーカイブズ・カレッジ(短期)を岩手県遠野市で開催することとなり、地域歴史文化の証として不可欠なアーカイブズについて考える機会と捉え、「なぜアーカイブズは必要なのか—文書保存の意義と実態」と題した講演会を開催します。

岩手県のアーカイブズの実情は、県も公文書館を有しておらず、震災まではアーカイブズについて高い意識を持っていたといえる状況ではありませんでした。しかし、この震災以後、いくつかの市町村では既に具体的な動きがあります。

こうした実情を踏まえ、アーカイブズの意義と岩手県の実情を確認することを目的とした講演会を開催します。

【入場無料】

■共催

○いわて高等教育コンソーシアム

○国文学研究資料館 3 研究グループ-基幹研究「民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究(①代表者:大友一雄)」、人間文化研究機構連携研究「大規模災害と人間文化研究」-大規模災害と資料保存・活用の研究 - 大震災における文書資料の保全と活用に関する研究(②研究代表者:西村慎太郎)・東日本大震災における被災紙資料の保存と活用に関するソリューション研究(③研究代表者:青木 睦)

■日程

2013年11月17日(日) 13時~17時

【第一部 アーカイブズの意義】

東日本大震災後、公文書管理は変わったか
日本経済新聞社 松岡資明氏

アーカイブズと民俗学—報告書『花輪祭り』の実例から
盛岡大学教授 大石泰夫氏

ビジネスアーカイブズと地域社会
元虎屋文庫研究主幹 青木直己氏

公文書管理法を活かして記録を残す
国文学研究資料館助教 加藤聖文氏

【第二部 地域社会におけるアーカイブズ】

地域文書館の設立を振り返って—アーカイブズ未設置地域の博物館の役割
元栃木県小山市文書館長 平田輝明氏

アーカイブズの管理と災害対応—遠野市の事例から
遠野文化研究センター調査研究課長 小笠原晋氏

被災文書の保存活用と市町村における文書中間保管庫の設計
国文学研究資料館准教授 青木睦氏

■会場

ホテルルイズ「万葉の間」(盛岡駅前通 TEL 019-625-2611 / FAX 019-625-2673)

■連絡・問い合わせ先

盛岡大学総務部総務課 TEL019-688-5555 (代)